

第2回 魚津市の財政を考える市民会議 会議録

○日 時

平成29年4月25日（火）19時00分～20時45分

○場 所

魚津市役所 2階 第1会議室

○配布資料

資料1－4 魚津市の財政体質の状況について

資料5 魚津市の水道事業の現状と課題について

○委 員

魚津商工会議所	石川 勝康
北陸税理士会魚津支部	濱多 善克
西田哲也りんご園	西田 哲也
米工房Jasmine	小林 由紀子
公益社団法人新川青年会議所	若林 健嗣
魚津市男女共同参画地域推進員連絡会	木下 理佳
魚津市自治振興会連合会	伊藤 甚宰
社会福祉法人海望福祉会	大崎 雅子
魚津市PTA連合会	浅野 朱実
魚津市副市長	四十万 隆一（座長）
魚津市企画総務部長	川岸 勇一
魚津市財政課長	池村 知明
魚津市総務課長	広田 雅樹

市民 9名（うち1名は所用につき欠席）

職員 4名

○会議内容

1 資料説明

各委員へ資料1～資料4を簡潔に説明。

2 意見交換

委員 経常収支比率が88.5%で残りの11.5%が自由に使えるとの考え方でいいか？

⇒ 11.5%は臨時的に生じるものに充てていることになります。建設事業等に臨時的に使っています。

委員 公共施設の見直しは重点ポイントであると思われるが、現状での施設の稼働率や利用率をどう評価しているのか。

⇒ 議会からは施設の利用率を高めるよう指摘を受けている。平成29年度からは60ある施設の年間の管理費、収入、利用状況をホームページで公開していく予定である。

現在、小学校の統廃合を進めているが、残った学校施設の利活用等もあり大きな経費の節減には至っていないが、統廃合が進めば将来的には施設の維持修繕は削減されると思われる。具体的に今後の目標に掲げているのが、総合体育館で同じスポーツ施設のありそドームもあることから、市民の皆さんの理解を得ながら施設の見直しを進めることができれば、維持管理費の削減に繋がる。

委員 経常収支比率を下げるため、収入を増やすのも人口が減少していく中で難しい。また、支出を削減するのも非常に厳しいと感じる。

⇒ 市としては収入が伸びてほしい。そのため現在は、産業の振興など様々な施策に力を入れているが、すぐに成果は出ない。

委員 支出の削減は難しいと思う。行政サービスが低下すると人口減少に影響する。簡単なことではないが何とか収入を増やしていく方法を考えていかなければならない。

⇒ 行政サービス低下による人口減少となる負のスパイラルは避けたい。現在は、第二子同時入所保育料無料化など子育て施策に力を入れている。

委員 施設の見直しで、百楽荘が廃止になったら困ると話していた方がいた。高齢者の方々の憩いの場はどうなっていくのかと思った。

⇒ 見方を変えて、公民館や統合された学校跡地の施設を利活用して、そういった憩いの場の機能を持った施設に再編していく方針であるが、先ほども言ったが市民の皆さんの理解がまず必要である。

委員 アンチエイジングや高齢者の健康づくりを支援することなど、将来に向けた魚津市のビジョンはあるのか。観光の振興も大切ではあるが、住まう人の幸せや安心安全が一番大切なのではないか。

⇒ 健康センターを中心に健康づくりには力を入れている。成果が上がれば、後期高齢や介護等の特別会計への繰出金が減っていくと思う。

委員 介護予防の取組みには、魚津市は早めに取り組んでいると思う。市・地域・関係団体・事業者とのネットワークづくりと連携を進めている。

委員 限られた財源の中で何か特化した施策に重点的に力を入れて行くのも一つの方法ではないか。その事業をわかりやすく市民や市外にも「みえる化」してはどうか。

委員 行政サービスについてだけでなく、地域資源の活用も含めた地域協議会的な活動の中で特

化した施策について検討を進めていく方法もあると思う。

⇒ 魚津の食と健康と言った様々な事業を結び付けた事業に取り組んでいきたい。それによって、新たな産業が生まれれば非常に喜ばしい。

委員 市の取組みで、魚津で土地を購入し家を建てたら助成金が出る事業はとても良いと思う。魚津は宅地用の土地が少ない。吉島市住跡地を民間で宅地開発してはどうか。吉田グラウンドや統合された小学校のグラウンドなど難しいかもしれないが、宅地として開発できれば固定資産税が少しでも増えるのではないか。

⇒ 現在、吉島市住跡地は民間の住宅用地として準備を進めている。

委員 せめて、今魚津に住んでいる人が、市外に出て行かない方法を考えなければならないのではないか。若い人達が、魚津の良い所に気づくようなわかりやすい事業をやってほしい。市民の意識改革も必要。魚津市には突出した物が無い。高齢の住みやすい街や健康事業を目玉にしてはどうか。

⇒ 確かに突出した物はないが、今後の参考にさせていただく。今年からは子育て施策を充実させている。

委員 保育園・幼稚園・小学校・中学校と繋がる教育の施策を充実させれば魚津のPRに繋がるし、若い世代が魚津に住むようになるのでは。

職員の削減は難しいのか。民間のように臨時職員を採用することでのコストダウンはできないか。

魚津は地形的にも土地が少なく、企業の誘致や設備投資は難しいのではと思う。民間の宅地開発に賛成である。

⇒ 臨時職員は配置している。保育職場は半数が臨時職員である。また、臨時職員を随時募集しているが賃金が安いので応募者がいない現状である。

教育についてはICT環境整備など教育委員会で実施している。施設を減らしても教育内容を高める努力をしていきたい。

委員 普通の教育環境で、障がいのある子を学ばせたいとの思いをもたれる家庭もある。福祉と教育が連携しワンストップで対応できる環境を充実させてもいいのでは。

公共施設の再編方針が実施されれば、非常に削減効果が高いと思う。進捗状況はどんなものか。手つかずのものもあるのか。

⇒ 公共施設をすぐに廃止することは難しいため計画は遅れ気味である。公共施設の再編方針の試算額は60の公共施設の耐用年数が来たら建替える事を前提としているため、かなり効果が大きくなっている。廃止したことによりいきなりこれだけの効果は出ない。もう少しわかりやすく公表できるようにしたい

3 資料説明

各委員へ資料5を簡潔に説明。

4 意見交換

委員 水道管の耐用年数はどれくらいか。

⇒ 40年ほどである。魚津市は50年以上のものもあり、1年1%を更新している。魚津は地形の高低差が激しいため工事にも経費がかかっているが、料金は県内では3番目に安く水道水を提供しているが、今の料金でこのままだと厳しい。

委員 魚津のうまい水はどこで販売しているのか。

⇒ 高速のサービスエリア、コンビニ、海の駅、水族館、埋没林です。

委員 市外での販売はしないのか。

⇒ 市外販売は、現在の課題。植樹祭等でPRしていきたい。モンドセレクション最高金賞受賞もあわせて周知していきたい。

委員 日本橋とやま館にはおかないのか。

⇒ これからの予定。モンドセレクション最高金賞受賞もそうだが、水の売上の10円相当を森の木づくりに充当している事も含めPRしていく。

委員 輸出はハードルが高いのか。

⇒ 非常にハードルは高いが検討していきたい。水だけでなく、おいしい水あつての食べ物があることを併せてPRしていきたい。

委員 今年度から住宅金融支援機構の長期固定金利型住宅ローン「フラット35」の金利を引き下げる制度が始まった。魚津市も子育て世帯の住宅支援事業に活用してはどうか。

⇒ 自治体が機構と協定を結ぶと金利引き下げが行われると聞いている。担当課に声かけする。

委員 逆の発想で、老後を魚津で住んでもらうというのはどうか。高齢者に都会から定住してもらうのはどうか。

⇒ 現在、高齢者はどんどん増えているが、一定期間を過ぎると逆に高齢人口は大幅な減となる。そうなった場合、医療や介護施設で働く若い人達の職場が失われ、職を求めて都会へ行くとなれば、さらに人口が減となる危険があるため、先を見据えた取組みをしていかなければならない。